

■義務教育学校「莊川さくら学園」開設に向けて

1 義務教育学校「莊川桜さくら学園」の特徴

1. 文部科学省「教育課程特例校」の編成・実施

(1) 新設教科名：「わくわくイングリッシュ（英語あそび）」（仮称）

(2) 対象学年：第1学年及び第2学年

*保育園からの継続したカリキュラム作成、運用

(3) 目的、内容：

- ・保育園で親しんだ英語遊びを継続することで、英語に親しみ、英語で発話したり、英語を聞いたりすることへの抵抗感を減らし、3年生以降の外国語活動への意欲を高めることを目的とする。
- ・英語を使用した様々な遊び（リズム運動、おにごっこなどの遊び）や、英語の絵本の読み聞かせ、工作などを実施する。

(4) 内容を削減する既存教科、及び教育課程上の補完

- ・内容を削減する教科：生活科（第1学年及び第2学年）
- ・子どもたちが生活の中の自然、まわりのものに対し、様々な「気づき」を養うことが生活科としては重要である。英語をツールとして遊ぶことにおいても、内容は生活の中での道具、ものを活用しての活動となる。
- ・減じた時間ではあるが、生活科の本質・特性につながる教科の学びととらえている。

(5) 地域や学校の特色を活かした特別の教育課程の編成 【別紙1】

- ・高山市立莊川小学校・莊川中学校は、「持続可能な未来社会に生き抜く力を育む」ことを掲げ、①世界とつながる外国語能力の育成、②莊川で生まれ育ったことを誇りに思い、地域に貢献する「地域社会人の育成」、③変化する未来社会に適応できる「対人関係能力」の育成を目標としている。
- ・そのために、保・小（前期課程）・中（後期課程）一貫した英語教育に取り組み、小学校低学年での英語に触れる機会を増やす。また、莊川が全国、世界につながるためICTによる姉妹友好都市との交流を実施する。
- ・教育課程外の時間も生かし、週3回、1回15分の英語あそびの時間（週45分1コマ）と、月1回の生活科を減じた時間を活用し、英語に親しむ機会を設ける。
- ・また、外国語のカリキュラムとしては、現在の学習指導要領にも携わった、長崎大学：中村典生氏（副学長）の協力により、保・小（前期課程）・中（後期課程）連続した日本初の外国語カリキュラムを作成することとしている。

(6) その他

- ・文部科学省の関係者の方にも賛同いただき、10月25日（金）に莊川小中学校を視察することになっている。

2. 「校区外通学の特認校」の実施

(1) 校区外通学の特認校の概要

○ 荘川さくら学園で実施する 9 年間の系統的・継続的な学習環境や、小規模校の特徴であるきめ細やかな指導等を求めて、他地区から通学を希望する児童生徒に対する取り組みをして特認校制を実施する。

(2) 特認校における就学手続きについて（事例含む）

【対象児童・生徒等】

- ・ 保護者、児童・生徒が当該市に居住していること
- ・ 児童生徒が、心身ともに健康で通学が可能であること
- ・ 保護者が特認校の教育活動等に賛同し、積極的に参加、協力できること
- ・ 保護者が安全な交通手段により、児童を通学させることができ、通学に要する経費を負担できるものであること

【就学時期及び就学期間】

- ・ 特認校に就学する時期は、毎年 4 月 1 日とすること
- ・ 特認校に就学する児童・生徒は、卒業するまで就学するものとする

【就学手続きの流れ】

- ① 特認校への就学・転入学の相談（保護者→学校、教育委員会）
- ② 学校見学
- ③ 面談（新 1 年生）、面談・体験入学（市内小中学校在籍者）
- ④ 申請書の提出
- ⑤ 審査（定員を超えた場合は抽選）
- ⑥ 4 月～入学（転入学）

(3) 荘川さくら学園への導入に向けた進め方について（想定）

< R 6 >

- ・ 教育委員会【各種関係機関との調整、協議】

↓

< R 7 >（荘川さくら学園 開校）

- ・ 特認校制度の周知
- ・ 以降、（2）「就学手続きの流れ」による

↓

< R 8 >（荘川さくら学園 開校 2 年目）

- ・ 4 月 特認校制度を活用した入学（転入学）

2 莊川さくら学園の校舎への願い

○「こんな学校にしたい」という願いの集約

①子どもが通いたい学校

・成長を実感 ・わくわく、楽しみ ・自分が主人公

②子どもを通わせたい学校

・安全、安心 ・子どもが伸びる ・社会で通用する力が身に付けられる

③教員が勤めたい学校

・働きがいがある ・居心地がよい ・指導力が伸びる

④地域の方が集いたい学校

・地域の子を育てる ・一緒に学ぶ ・一緒に〇〇やってみる



これらの願いをより多く反映した設計、校舎づくりとなっている【別紙2】

*同じ敷地内に、保育園、1年生から9年生の子供たちが一緒になること

*明るくきれいな教室で、木のぬくもりを生かした環境であること

*校舎前には「莊川の小道」が作られ、雨や雪の日も安心して通れること

*グラウンドには夕雲設置され楽しく過ごせること、また200mトラックも作られ伸び伸びと部活動も行われること

*ランチルームでは給食のほか、児童生徒の活動や会議にも使用できること

*オープンスペースでは、地域の方も憩える場所となっていること

3 開設に向けた行事日程

1. 高山市立莊川小・中学校「校旗返納式」

開催日時 令和7年3月20日（木・祝日）

主 催 莊川小・中学校

共 催 莊川の子を育むための検討委員会、莊川町PTA

- ・学校の規模縮小に伴い、隣接校に編入する場合は「閉校式」として行うのが一般的ではあるが、今回の莊川地域のケースは義務教育学校へ『移行』するための一過程であるため『校旗返納式』として実施する
- ・地域検討委員会においても、学校がなくなるのではなく『移行』に向けた前向きな行事としてとらえている

2. 高山市立莊川さくら学園「開校式」

開催日時 令和7年4月8日（火）

（参考：式典終了後始業式、同日午後開校記念行事（地域主催））

（参考：4月9日：入学式）

主 催 高山市、高山市教育委員会

- ・新しい学校形態である義務教育学校を開校する式として実施する

4 その他開校に向け必要となる事項の進捗状況

1. 校章

- ・デザインが6月に決定。
- ・校章デザインを募集。児童生徒や一般の方々からのアンケート調査により決定

2. 校歌

- ・作詞は5月中旬に決定している。9月末の完成に向け作曲作業が進められている
- ・12月に開催される「ふれあい研修大会」の場で、地域の方に披露することを考えている

3. 制服

- ・これまで保護者へのアンケートを取りながら進めてきている
- ・制服は「ブレザースタイル」に決定。スラックス・スカートについては選択自由となっている
- ・ネクタイ・リボンのデザインについては、児童生徒が決定している

高山市立荘川さくら学園 構想

荘川さくら学園に！通いたい！通わせたい！集いたい！
日本初の保－前－後の外国語カリキュラムと荘タイム(郷土教育)！

【荘川さくら学園 義務教育学校のメリット】

- 『保－前－後』連続の教科カリキュラムによる教科指導
※日本初の外国語カリキュラムの作成
- 小学校における教科担任制の実現と充実
- 小1ギャップ、中1ギャップの解消による不登校未然防止
- 縦割り活動による社会性や人間形成の充実



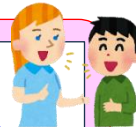
【荘川さくら学園で、持続可能な未来社会に生き抜く力を育む】

- (1) 荘川から世界の人とつながる『外国語能力』『プレゼン・ICT能力』『確かな学力』の育成
- (2) 荘川で生まれ育ったことを誇りに思い、地域に貢献する『地域社会人』の育成
- (3) 変化する未来社会に適応できる『対人関係能力』の育成



【世界とつながる外国語能力の育成】

- ◆日本初の保－前－後の外国語カリキュラム
※現学習指導要領：長崎大・中村典生氏と共同研究
- ◆中学卒業時には、全生徒が英検3級以上の能力
- ◆常時、ICTによる姉妹友好都市等との交流
アメリカ(デンバー)、ルーマニア(シビウ)、ペルー、フランス



【生きて働く確かな学力の育成】

- ◆学習の主体者として自律的に学ぶ子の育成
わたり(前期)、自己調整(後期)
- ◆前期課程における教科担任制の実現
- ◆前期課程児童と後期課程生徒による縦割りの学び方交流(※学びのレベルアップ)
- ◆全教科、保－前－後接続を考えたカリキュラム

【起業できるプレゼン能力・ICT能力の育成】

- ◆『ドローン』操作による映像取得技術の学習
- ◆大学連携による『プレゼン』制作学習
- ◆家庭と学校をつなぎ、一人で学べる『メタバース』学習

【荘タイム・探究的な学習】

- ◆保育園から義務教育の9年間まで12年間の系統的(関わる・知る・協働する)カリキュラム(大学連携センターと連携)
- ◆3つのテーマ(郷土芸能、自然・環境、生活文化)を横断的に学習
- ◆大学等との連携による専門的な学習(水芭蕉保存、化石調査等)

【地域と学校の連携・協働】

- ◆地域学校協働推進組織による地域と学校の接続
- ◆地域の方(ふるさとドリーマー)による伝統芸能、生活文化、郷土資源の学習
- ◆地域のふれあい研修大会で子ども・学校・地域による意見交流
- ◆地域貢献活動の企画・実施



【情報発信・表現力育成】

- ◆ICT機器活用による地域の魅力発信(白山ユネスコエコパーク内の学校交流、姉妹友好都市等へ情報発信)

【育 me の時間・社会情動的スキルの育成】

- ◆SEL(ソーシャル・エモーショナル・ラーニング)による社会情動的スキル(非認知能力)の育成
- ◆自己理解・他者理解等による人間関係構築力を育成
※福岡教育大：山田洋平准教授の協力
- ◆保－前－後の系統的なSELカリキュラムの実施
- ◆異年齢による学び

【対人関係能力の実践】

- ◆日常生活における振り返り(自己理解や他者理解などの視点)
- ◆他中学校交流(留学)、新島小(東京)交流
- ◆地域・海外との交流





これが「荘川」の義務教育学校！！

新しい校舎、広いグラウンドで
元気に活動します！！





雪や雨の心配はいりません！！



体育や部活動でも快適に使えます！！



毎日の給食も楽しみです！！



地域の皆さんも一緒に集います！！



広くてきれいな遊戯室でいっぱい遊びこみます！！



毎日の授業(勉強)が楽しくなります！！